

異常な行動

識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動発現時刻	就寝中か否か (就寝中:○、就寝 中じゃない:×)	覚醒直 後に発現	就寝中の場合、 就寝時刻から発 現までの時間	回復までの 時間	一眠りして 完全回復	体温	患者の記憶	睡眠覚醒症 等の既往	睡眠覚醒症 等の家族歴	光に対する 反応	他剤による 「異常な行 動」の副作用 履歴	異常な行動に関 する既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、 親が幻覚を見ていたよとど言っているのか?)	旧資料No		
209	B03010203	15	年	男性	妄想	2004/2/4 2004/2/5 2004/2/5 2004/2/6 2004/2/6	夕 朝 夕 朝 夕	2004/2/6	—	×	No	—	No	No	解熱過程	—	No	No	—	—	2004/2/4 38.8℃の発熱が認められ他院受診。インフルエンザA型と診断。 (夜)タミフル内服開始。 2004/2/5 (12:00頃)平熱となったが、「頭が変になった」と言う。 2004/2/6 「記憶が変になった」と訴え、一晩中起きていた。タミフル投与を中止。 2004/2/9 脳神経外科病院受診を紹介受診。頭部CT、脳波検査にて異常は認めず。 2004/2/10 近医精神科を受診時「本来の自分ではない気がする…」と訴えたが、明らかな幻覚症状は認めず。 2004/2/13 普段と変わらず会話もできるようになり、翌日には学習塾の授業にも出席した。 2004/2/16 学校へ登校したが、授業中に「世界の平和が役者によって歪められている。脳内麻薬が…」と訴え、言動もまとまりなく自宅に帰宅し、近医精神科を受診。「暗殺されるかもしれない。」と怯えていたため、統合失調症の発症を疑いhaloperidol 3.3mgを筋肉内投与し、入院の必要性も考えられた。 2004/2/17 当院精神科を受診。幻覚妄想を認め、同日医療保護入院。入院時現症:簡単な会話は出来るが、会話の内容に一貫性に欠け、「僕は精神科医にならなければいけないような気がする…」と表情を変えずに話し続け、質問に対して適切な回答は得られず。易怒性や不機嫌さは認めず、見当識も保たれていた。体温36.9℃で頭部画像所見では異常は認めず、血液・生化学検査はCPK、CRPの軽度上昇が認められた以外は異常なし。また脳波検査でも基礎波として後頭優位に9-11Hzのα波が認められ、徐波傾向はなかった。髄液検査では細胞数が9μ/Lとやや多い以外は異常所見なし、インフルエンザ抗体価も1倍未満であった。 入院後経過:「神の声が聞こえてくる…」と訴え、病院内を徘徊するため、risperidone 1mgを投与したが、入院日の夜は朝4時頃まで自室と看護ステーションを何度も往復し、妄想の内容を話し続けた。また紙や壁紙に滅裂な内容を記載し、部屋中に記載した紙を散乱させた。入院2日目よりrisperidone 3mgに増量したが効果はなく4日目よりolanzapine 20mg、levomepromazine 50mgの投与を開始した。 2/21には異常行動が活発となり保護室にて治療を行っている。	異-1-9
210	B05001829	15	年	男性	①痙攣 ②譫妄	2005/3/20	10時過ぎ頃	2005/3/20	11:30	×	No	—	No	Yes	発熱持続	No	No	No	No	2005/3/20(11:30頃)硬い表情で訳の分からないことを言いながら歩き回っているうち、右上肢屈曲硬直、右に傾き立っていらなくなり、家人が支えた。救急隊到着時は全身硬直しており、皆でかかえてストレッチャーに乗せた。病院到着時、38.1℃、ややぼおとするが(JCS1)麻痺(-)、顔にやや硬直(+)(口を動かすににくい)採血、モニター装着、KNIAにて補液を開始。頭部CT:異常なし、脳波:]異常なし。(24:00頃)37.2℃。不穏となり、眠れないというためモニターはずす。	異-1-28	
211	B06024227	15	年	男性	①異常行動 ②嗜眠	2007/2/8 2/9~2/12 2007/2/13	夕 朝・夕 朝	2007/2/13	午前	×	No	—	No	No	解熱後	No	—	No	2007/2/8 インフルエンザA型治療のため、タミフル投与開始(75mg×2/日～2/13)。 2007/2/11 インフルエンザ軽快・回復。 2007/02/13 (午前)学校で授業中突然歌を歌う。異常行動発現。目線が定まらず(目線が合わない)早退。帰宅後も嗜眠傾向となり、自宅静養。(JCSで2ヶタ以上というわけではない、JCSはほぼ1) 2007/2/16 (午後)症状続いたためA病院より紹介。採血、検尿、脳CT異常なし。脳MRI、脳波は途中で興奮して最後まで撮れなかったが、撮れた分は異常なし。観察入院。ソルデム3Aの点滴。 2007/2/17 (6:00)自ら抜針し、病院内を興奮して暴れていると報告。父母と相談し、外出→外泊とする。 2007/2/19 (午前)帰院にて脳SPECTの検査を行うが、やはり興奮して不可能。父母への暴力行為もあり。再び外泊とする。 2007/2/21 父母に観察の下、登校を開始。 不明 家でテレビをみても10分もすると「疲れた」というなど、集中力低下が主体となった軽度の症状へ変化してきている。 2007/2/23 略退院とする(本人が病院に戻りたくないと言って聞かない様子)。家では夜間、父母と共に睡眠したが傾向(これまでは全くなし)。父母が外出すると「早く帰ってきて」と携帯電話にかかってくる。(これも今では全くない)ただし、徐々に集中力や根気は回復しつつあるようで塾にも行くようになっている。 入試前のテストがあった。 2007/2/26 2/13以降の一連の行動を自覚しはじめ、全く覚えていないと言う。この頃より学校の授業を受ける様子が戻ってきて集中力が出てきたと担任より報告あり。 2007/2/28 入試前テストが返却され本人も驚くほどに低い点数だったとのこと。2/28~3/1の時点で父母から見ても、全く正常に戻ったと評価している。しばらく、異常行動がみられていたことで、学校で友人に冷たくされていた時期があり、本人もそれに対するショックが今は大きいようだ。父母から確認のMRI、脳波は遠慮したいと申し出あり。	異-1-93		
212	B06024378	15	年	男性	①異常行動 ②自殺企図	2007/2/17	昼 22:00	①2007/2/18 ②2007/2/18	1:00 7:40	×	No	—	7時間	—	発熱持続	Yes	No	No	—	No	2007/2/17 学校の保健室より「38℃の熱があるので早退させますが、今日病院に連れて行けますか?」と母親へ電話。母親が駅まで迎え、その足でA院へ行きインフルエンザと診断。(昼)タミフル服用。(22:00頃)タミフル服用。 2007/2/18 (1:00)悪夢を見た。暴れた(本人より)。しかし両親は暴れた姿を見ていない。目がすわっていた。異常行動発現。(7:30)再度暴れた。玄関のドアを開けようと思ったが開けられず、台所へ行って包丁を持った。流し台の前で包丁の刃を自分に向けている姿を両親が発見した。包丁は足元に落とした。家族には自殺行為に見えたとのこと(親を刺そうになったから自分に刃を向けた。ところどころ記憶ある。全ては覚えていない。)(7:40)自殺未遂発現。(7:55)救急車へ電話。(8:05)B病院救急外来に到着。38.7℃。タミフル中止。(8:40)自殺未遂軽快。異常行動軽快。 (時間不明)体温:39.6℃ 2007/2/19 かかりつけのC院来院。体温:38.4℃。	異-1-94